

情報科目の高校・大学への影響

情報活用能力を“国民的素養”に 小・中・高校で一貫して育成

新課程の「情報」がめざすもの。それは「文系・理系を問わず、情報活用能力を“国民的素養”として身に付けさせること」です。情報活用能力とは、情報手段を用いて適切に情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したりする力のこと。これは、知的生産活動においても、社会で活躍するうえでも、必要不可欠な力だと言えます。

情報活用能力は、高校だけで育成できるものではありません。小・中・高校を通して、これを身に付けていく必要があります。小学校の情報教育に関しては、プログラミングの必修化ばかりが注目を集めていますが、われわれが重視していたのはITスキルよりも「情報の扱い方」、つまり広い意味でのプログラミング的思考や統計の知識、情報モラルでした。小・中学校では「情報」という科目が設定されていないため、小学校では算数や理科、中学校では技術など、さまざまな科目の中でこうした力を育てていくことになります。

高校生全員がプログラミングを 学んで卒業する時代へ

高校の「情報」は、現行課程では「社会と情報」「情報の科学」の2科目から1科目を選択する形になっています。現状ではプログラミングを含む「情報の科学」を履修する生徒は約2割で、8割の生徒はプログラミングを学ばずに卒業しています。これが新課程に移行すれば、「情報I」で全高校生が学ぶようになります。これにより、プログラミングを含む情報活用能力は、まさに“国民的素養”になっていくと言えるでしょう。

高校教育の課題は、2つあります。1つは教員不足です。このため文部科学省では、各種の手引きや教員研修用の教材を作成するほか、外部人材を活用した指導モデルの提示も行っています。これは他教科では行われていない異例のことです。

もう1つの課題は、高校でしっかり情報を学ぶ動機や態勢づくりです。共通テストの出題科目になったことで、これらはよい方向に向かうことでしょう。

入試科目にすることの メリットとデメリット

このような高校教育までの取り組みを、高大の結節点としての入試に各大学はどう生かしていくか？ 情報を課せば志願者が減るだろうというデメリットに目が向きがちですが、私は、逆に課さない場合のデメリット

「情報I」必修修化にどう対応？ 先を見越した経営的判断を

元・文部科学省
高等学校情報科担当教科調査官
京都精華大学 メディア表現学部教授

鹿野 利春

かのとしはる ● 石川県の公立高等学校教諭として勤務した後、石川県教育委員会を経て文部科学省に高等学校情報科担当教科調査官として勤務。新学習指導要領をまとめた後、情報I・情報IIの教員研修用教材をまとめる。2021年より京都精華大学メディア表現学部教授。



も大きいと考えます。今、産業界からは「情報活用能力を持つ人材が不足している」という悲鳴のような声が聞こえています。情報教育に前向きでない大学は、遠からず産業界は評価しなくなるのではないのでしょうか。またそれは、保護者の大学への評価にも影響が及ぶことでしょう。一方、入試に情報を課すことは、大学にとってのメリットもあります。入学者のレベルに応じた教育プログラムを提供でき、初歩的なりテラシー教育は必要なくなります。今、そしてこれからの社会は、文理、職業問わず情報活用能力は必要です。実際、漫画などの表現分野で活躍するためにも、読者の好みに対応するためには、こういった素養は必要でしょう。私が今所属する京都精華大学でも入試で課すことがあるかもしれません。

このように、入試で情報を課すかどうかは、入試戦略だけの問題ではなく、大学の質保証に関わる問題と言えます。中長期的に大学の経営に大きな影響を与えることから、先を見越した経営判断が必要でしょう。

GIGAスクール構想の進展の中、子どもたちは日常的にプログラミングをするようになっていきます。慶應義塾大学、マイクロソフト社と組み、産学官連携でIT教育を推進する岐阜県のような自治体も出始めています。私が座長を務める経済産業省の「デジタル関連部活支援の在り方に関する検討会」では、高校の情報系部活支援について議論しています。「情報」の甲子園やオリンピックが実現したり、日本全体で産業界等の支援による高度なデジタル人材を輩出できれば、社会はきっと変わるはずで。

情報を入試科目にするメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・産業界からの評価・保護者の支持・就職率の向上・入学者の情報能力のレベルを把握したうえで教育が可能・初歩的リテラシー教育不要	<ul style="list-style-type: none">・負担増による受験生の敬遠・作問・採点の手間